

正統派のサンドイッチは ローストビーフをはさんで

サンドイッチのフィリング（はさみ込む素材）にはAからZまであるといわれる。すなわちアンチョビ（Anchovy）からズッキーニ（Zucchini）まで、何でもはさんでよいという意味である。

パンに物をはさんで食べるという習慣は、遠く古代ローマ時代の記録にも見られる。彼らは食事と食事の間に、オフラと呼ぶサンドイッチに似たスナックを食べていたという。

この手の食べ物がいまではサンドイッチと呼ばれ、それが人名にちなむものであるということとはよく知られている。

それではこのサンドイッチなる人はどのような人物であったのだろうか。

イギリスはケント州にサンドイッチなる領地があり、その四代目の領主が伯爵ジョン・モントギュー（一七一八～一七九二）であった。

彼は十一歳で伯爵を継ぎ、三十歳で海軍大臣となったが、その在職期間中は、贈賄、収賄などの不始末が目につき、私生活も決して模範的とはいえなかった。イギリス史上最底の海軍大臣といわれる有り様である。

そんな彼が歴史に名をとどめているのは、賭け事が好きだったことからだ。

根っからのギャンブラーだった彼は、食事の時さえカードテーブルを離れようとしなかった。

一七六二年外務大臣を務めていたころ、二十四時間ぶつ通しでゲームを続けた彼は、食事として好物のローストビーフを二枚のトーストにはさんだものを運ばせた。

食べながらゲームを続けることを可能にしたこの食事は大変評判になり、真似をする者が続出した。

そこでロス・レイ・ロンドレスなる人物が、伯爵の名にちなんで、この食べ物を「サンドイッチ」と命名したという。

だから正統派サンドイッチのフィリングは、ローストビーフというわけである。

ワンポイント知識

個体識別番号

（牛トレーサビリティー制度）

国内で飼養されているすべての牛の両耳には十桁の個体識別番号を表示した耳標が付けられています。

この番号により、生産から流通・小売までをたどり確認することができます。

また、問題のある商品の回収や原因の究明を迅速に行うことができます。